

市民対話集会「ふれあいトーク」報告書

主催：倉吉市関金公民館（いきいき希望塾）
と き：令和元年8月2日（金）13：30～15：00
ところ：関金総合文化センター 営農相談室
テーマ：「第11次倉吉市総合計画
【後期基本計画】について」



<主な意見について（抜粋）>

○いつまでも健やかに過ごせるまち（福祉・健康・人権）

◆子どもを生み育てやすい町を作るとありますが、育てやすい町とは、どのような町ですか。又、その町をつくっていくためには何が必要だと思いますか、考えを教えてください。

➢ 子育てに不安を持っている若い人たちには、保育料などの経済的な不安や仕事と子育てをどう両立していけばいいのかといった精神的な不安など色々ある。それらを少しでも解消するために、市では、子育てに関する相談ができる子育て支援センターを作っている。子育てをする上で必要な保育所などの施設、スタッフ、相談体制、経済的支援などをきちんと整備していくことが子育てしやすい町を作っていくことにつながっていくのではないかと考えている。

◆高校への進学でバスや自動車などを使って通学する場合、定期代に助成があります。ここから遠くの学校へ通うとなるとかなり多くの費用がかかります。特に、母子家庭や父子家庭などだと費用負担が大きいと思います。助成を続けてほしいと思うのですがどのようにお考えですか。

➢ 学校に通うための費用をいかに抑えていくかというのは大事な子育て支援策になると思う。関金地区では、倉吉市と関金町との合併協議に基づき、関金町時代に国鉄倉吉線廃止に伴って設けられたスクールバス基金（5千万円）を使って、高校に通うときの定期代を補助するという形をとっている。令和2年度まで制度を実施する予定。遠距離通学の交通費支援については他地区でも同様の課題であるため、今後は市だけではなく県全体の問題として、しっかり議論をしながらその方策を出していきたい。あわせて、近年、中部の生徒が東部、西部の高校へ進学する例も多くなってきているが、市としては、ぜひ皆さんには中部地域の高校へ進学していただきたい。

○人口減少・少子超高齢社会の到来

◆同級生の中にも県外へ就職したいとよく聞きます。県外から人を呼び込むことも大切ですが、地元の方が地元で働きたいと思える町づくりが必要だと思うのですが、市長はどうお考えですか。

➢ 若い人が都会に出てみたいと思うというのは当たり前であって、ただ都会に出た人たちがいずれは生まれ育った地域の良さというのを感じて、いずれ帰って地域の中で頑張ってもらって、そういう魅力のある町を作っていくことが大事だと思っている。そのためには、いろんな希望を持っている若者たちのニーズに応えるだけの学校、職場、生活環境や交通網の整備を含めて準備していくことが大事であり、学校については、看護師を希望される方の受け皿ということで看護大学を設立していただいた。職場については、企業誘致や起業の支援を行っている。それから、「都会にない地域の良さ」、「関金の良さ」、こういうものをもっと磨き上げていくことも大切だと思っている。そしてそれを皆さん方若い人たちに改めて理解をしてもらうための努力もしていきたい。

○安全・安心で快適に暮らせるまち（生活基盤施設・環境・防災等）

◆先日、関金の郷土資料を読みました。そこでは、地震があった時に、どのようなことをするかが、自助・共助・公助別に書いてありました。ですが自分にもし、同じようなことが起きれば、自分のことで精一杯だと思いますが、僕たちは普段どのようなことをすれば良いですか、又、周りの人に知らせたりすること事は、実際はとても大変だと思いますが、防災マップなどを作る機会をもうけるのはどうですか。

➢ 災害の時によく自助・共助・公助という言葉が使われるが、まずはやはり自分でできることをしっかりと理解して、特に事前にできる準備をしておくことが大事。共助に関して、市では「支え愛マップ」作りを地域の皆さんにさせていただくように働きかけをしている。どういうところに避難するのか、誰が避難させるのか、そういうことをきちんと整理をして、普段から心構えとしておくことが非常に大切。関金地区では自主防災組織作りが進み体制もできているので、地域とも連携もしながら、有効な対策をとっていただけるとありがたい。